



まほろばオリジナル香水

「あはれ」

まほろば主人

リニューアル!

●加羅入り「心の花束」エクセレントタイプ
携帯用竹筒、桐箱入り+古西陣袋、草木染め箱...¥96,000
(詰め替え用リフィルタイプ...¥55,000)

古より日本の心といえば、「もののあはれ」が挙げられます。「古事記伝」を著した国学者・本居宣長は「源氏物語」の中に、この「もののあはれ」の頂点を見い出します。物事の移り行く儚さ、人の命の危うさ、そして自然の止め処なき流行。一つとして留まることを知らず、二つとして同じものが来る事のなき無常。

その、そこはかたなき情緒を感得する日本人は、世界においても稀に見る感性の民族でもあります。それは多分に、四季の変化に富む繊細さであり、ダイナミズムであり、多様性、不易性から来るものでもありましょう。

美しくも厳しき自然に陶冶された日本人の心は、人の悲しみを悲しみとして自分の内に感じる天性の情緒を身に帯びるようになりました。

物のあわれは、人を憐れ慈しむ慈悲心ともなります。全ての物事を我が事のように思える佛菩薩のような人々が、日本人の本質だと思えるのです。

「もののあはれ」こそ、命への憐みの「あはれ」であり、また、静から動へ転換する祭りのような晴々とした陽気さも、「あはれ」を「天晴れ/あっぱれ」とも読んでしまう日本人の両極性でもあります。

このように、日本人の持つ多面的心の特性を、『あはれ』と称したいと思います。



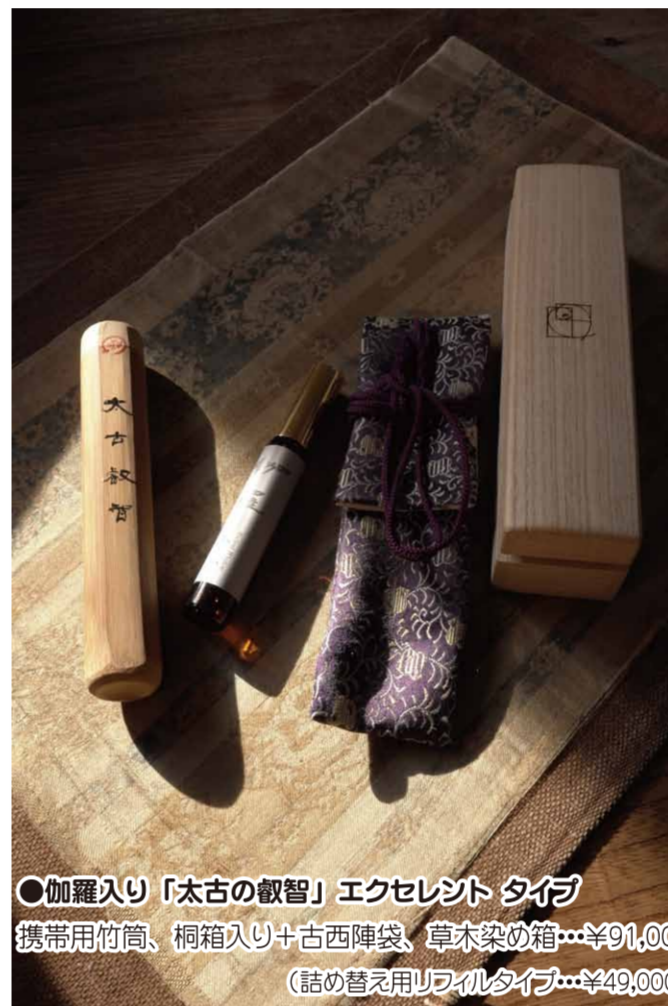
この度、まほろばオリジナル香水のシリーズを、この「あはれ」と名付けました。

それは、欧米発の一流フレグランスというものが99%以上、石油原料の化学的人工香料で製品化されているものに対峙するためです。つまり、できるだけ香りの時間を長引かす、いわゆるノートを長くするため、さらにいえば安価で仕上げるために、最早一般化して世界的潮流になった香水の概念を崩した

い、というより本来に復したいとの願いでもありました。

物事の移り行く実相は、香りにおいても同じです。香りはさりげなく芳しく、いつの間にか消え行くことの印象の方が、もっとその香りを記憶として鮮烈に留め置けるのです。

この「余情残心」こそが、日本の伝統的な所作のたしなみであり、幽玄美の極みでもあります。



●加羅入り「太古の叡智」エクセレントタイプ
携帯用竹筒、桐箱入り+古西陣袋、草木染め箱...¥91,000
(詰め替え用リフィルタイプ...¥49,000)



すでに、「太古の叡智」と「心の花束」を世に問うて、10年ほどの歳月が過ぎました。その間、エッセンチアの篠原氏が、かの伽羅の香木から液体のエッセンスを抽出する

ことに成功させたのでした。伽羅と言えば、正倉院の御物にも収蔵されているように、稀少にして高価、天文学的な値に、入手は中々困難なものがあります。しかし、今回、この伽羅の滴々を従来のものに加えて、香水の一つの極みとしました。



●デラックスタイプ「太古の叡智」
携帯用竹筒、桐箱入り...¥33,000
(詰め替え用リフィルタイプ...¥18,000)

さらに、工夫を加え、茶道の茶勺入れと箱入れに注目して、9mlの香水瓶を携帯すべく竹筒と桐箱を用意しました。

映画「利休にたずねよ」の中で、市川海老蔵氏演ずる千利休師が、用いた茶筌と竹の花入れを作られた奈良高山町の名匠「久保左文」氏に依頼し、製造して戴きました。

また、文字入れは私が書き、それを最先端の科学



利休像

技術で、桐箱をレーザー光線で穴を開けながら刻み、竹にはUVでプリントするという、今まで試みのない実験を重ねて国内外でも初の成功を齎せた結果がここに刻印されています。画期的なことです。



名匠「久保左文」氏

更に、その筒を携帯するおしゃれを演出する意味で、思いっきり古典的装いを試みました。

パリの街角で、パリジェンヌがバックから取り出した和風の絹袋から東洋的フレグランスの香りが周囲に漂って驚かす。そんな想定で、江戸時代後期から明治初期に織られた京都西陣織の帯や能装束に使われた古典切れを探し、さらに裏地と紐も正絹、そのために三度ほど京都骨董街に通いました。



京都西陣織の店

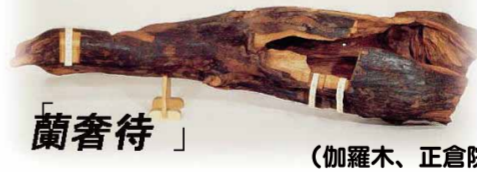
ようやく材料は揃えたものの、小間物を縫う方が札幌には稀で難儀しました。そこに、開店当初より、お客様で懇意にくださった方が和裁の教授で、学校まで開校されており、それを思い出しようと思いが果たせました。



●デラックスタイプ「心の花束」
携帯用竹筒、桐箱入り...¥33,000
(詰め替え用リフィルタイプ...¥24,000)

最後に、それ全てを入れる箱。偶然にも市内で、紙箱を手作りされている若き女性の職人さんと出会う幸運。古い和紙に、柿渋や藍を刷毛目で塗り、それを厚紙に貼って仕上げる、端正にして実に手の込んだ作品。それを以て「あはれ」の完結篇として、来春3月以降出来上ってきます。

このようにして、時間と労力と費用がかかったことは、言うまでもありません。たしかに贅沢品といえは贅沢ですが、しかし、エリクサーを製作したように、物事を徹底したい思いがあり、その先に何かあるか見てみたい願ひがありました。日本の美の一端を、我々も含め、外国の方々にお伝えしたい、それは取りも直さず、日本文化の素晴らしさ、日本人としての自信を取り戻す一つのよすがになれば、と願う次第です。



「蘭香待」 (伽羅木、正倉院)

永遠の相性。
イエスとマリア……。

二人をイメージすれば、どのような香りが立ち上るのでしょうか……。

2000年を遡り、エルサレムに想いを馳せ、東西の像が、今、結ばれる。名を冠して「Ancient Wisdom」、そして「Floral Bouquet」。

至高の智者イエス・キリストと、至情の女神マリアが、香りに憑依ってあなたの前に現れ、「太古の叡智」を授け、天上から「心の花束」を手渡す。その一噴きの契約により、あなたは至福の楽園へと誘われ、神の御腕に涙と共に抱かれます……。



●ネックレスタイプ
「太古の叡智」と「心の花束」

お試用の可愛い小瓶の1ml入り。それぞれに、本場イタリアとフランスのクロスが付き。共にネックレスに結び、首から下げて携帯する。サタンも遠くのお守りとなる。

各...¥5,000

二つの香水には、聖書に縁の深い「没薬」、「乳香」、「スパイクナルド」が入っています。「Ancient Wisdom」は、樹木系5種、根系2種、花系5種、柑橘系3種、香辛料1種の16種類。「Floral Bouquet」には、花系13種、柑橘系4種、ベースが6種、計23種類。ペンダントトップの十字架とメダリはイタリアとフランスから。

- 全て野生と有機栽培の天然香料で構成されています。
- 「今と永遠」を繋ぎ、「此岸と彼岸」を渡す霊水『エリクサー水』が全ての香料を一つに調和させます。

